

令和4年度青少年の健全育成を進める県民大会(2023年1月21日(土))

# ポスト・コロナ時代の 地域支援

～地域の子どもを地域で育てる～



東京学芸大学  
柴田 彩千子



# 内容

1. 子どもを支援する大人とは？
2. 現在の学校教育現場における地域支援
3. 子どもの居場所と地域支援
4. 支援者としてのやり甲斐と成長



# 1. 子どもを支援する大人とは？

まずは、子ども支援する大人について、  
皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



# 子どもを支援する大人とは

## 保護者

- 写真データは削除しています。

## 教師

- 写真データは削除しています。



# 子どもと保護者・教師の関係 (タテの関係)

保護者

教師

子ども



# 子どもを支援する大人とは②

例：絵本の読み聞かせ

- 写真データは削除しています。

例：登下校の見守り





写真データは削除しています。

## 子どもを支援する大人とは②

例：冒険遊び場のプレーリーダーや学生ボランティア

# 子どもを支援する大人とは②

例：キャリア教育支援

- 写真データは削除しています。

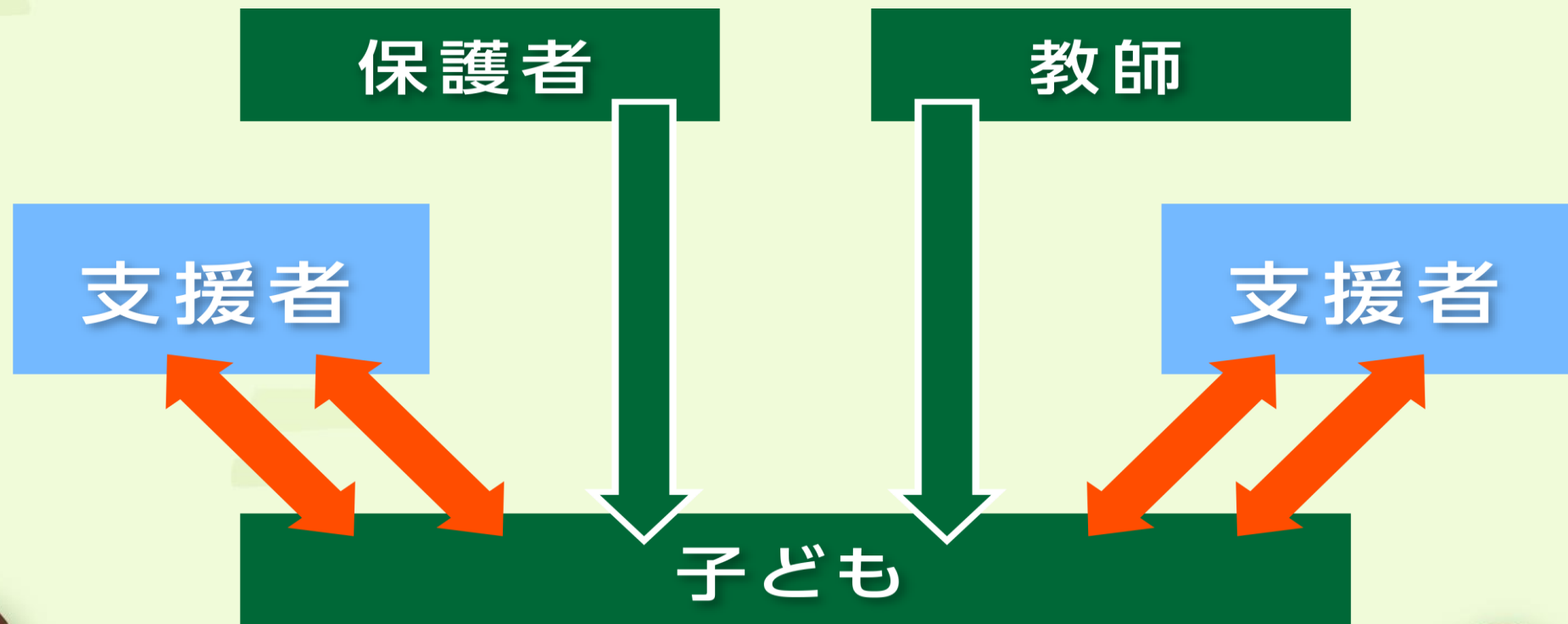
例：社会人講師を繋げる陰  
の支援者(コーディネーター)

- 写真データは削除しています。





# 子どもと支援者の関係 (ナナメの関係)



# 子どもにとってナナメの関係にいるおとなとは？

- 子どもを評価しない、利害関係のない「おとな」
- 子ども多角的に見ることのできるおとな
- 子どもにとって身近な職業人（社会人）、子どもにとっての職業観・勤労観を日常を通じて養う機会
- 子どもの「自己肯定感」を高める存在：地域の「おとな」たちに気にかけてもらえる、大切にされているという子どもの認識を醸成することが大切



## 2.現在の学校教育現場における地域支援

子どもに関わる大人が、教師を中心とした「チーム」として連携しながら、学校の運営を行う「チーム学校」における支援者の役割について、整理してみたいと思います。



# 「チームとしての学校の在り方」とは？

これからの学校が教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、学校の組織としての在り方や、学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、「チームとしての学校」を作り上げていくことが大切である。

そのため、現在、配置されている教員に加えて、多様な専門性を持つ職員の配置を進めるとともに、**教員と多様な専門性を持つ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携、協働することができるよう、管理職のリーダーシップや校務の在り方、教職員の働き方の見直しを行うことが必要である。**また、「チームとしての学校」が成果を上げるためには、必要な教職員の配置と、学校や教職員のマネジメント、組織文化等の改革に一体的に取り組まなければならない。（文科省資料より）



# 「チーム学校時代」の教育支援者の現状

学校経営の課題	具体的な教育支援職(例)	連携先(例)
①教員が教育課程に専念する環境の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールロイヤー</li> <li>・スクールサポートスタッフ</li> <li>・実習助手、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁護士会</li> <li>・大学、等</li> </ul>
②部活動における生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動支援員(部活動指導員)</li> <li>・部活動外部指導者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブ</li> <li>・中体連、高体連、等</li> </ul>
③個(児童・生徒・保護者)に応じた支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールソーシャルワーカー</li> <li>・スクールカウンセラー(学校心理士スーパーバイザー)</li> <li>・特別教育支援員、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所</li> <li>・学童保育所</li> <li>・社会福祉協議会、等</li> </ul>
④教育課程の充実・きめ細やかな教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書</li> <li>・学芸員</li> <li>・社会教育主事(社会教育士)</li> <li>・学習サポーター</li> <li>・キャリア教育コーディネーター</li> <li>・地域学校協働活動推進員(教員:地域連携担当職員)、等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会教育施設(図書館、博物館、公民館、青少年教育施設、等)</li> <li>・地域学校協働本部</li> <li>・企業(教育CSR)、NPO</li> <li>・大学、等</li> </ul>

# 地域学校協働活動とは？

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、**地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働**して行う様々な活動です。

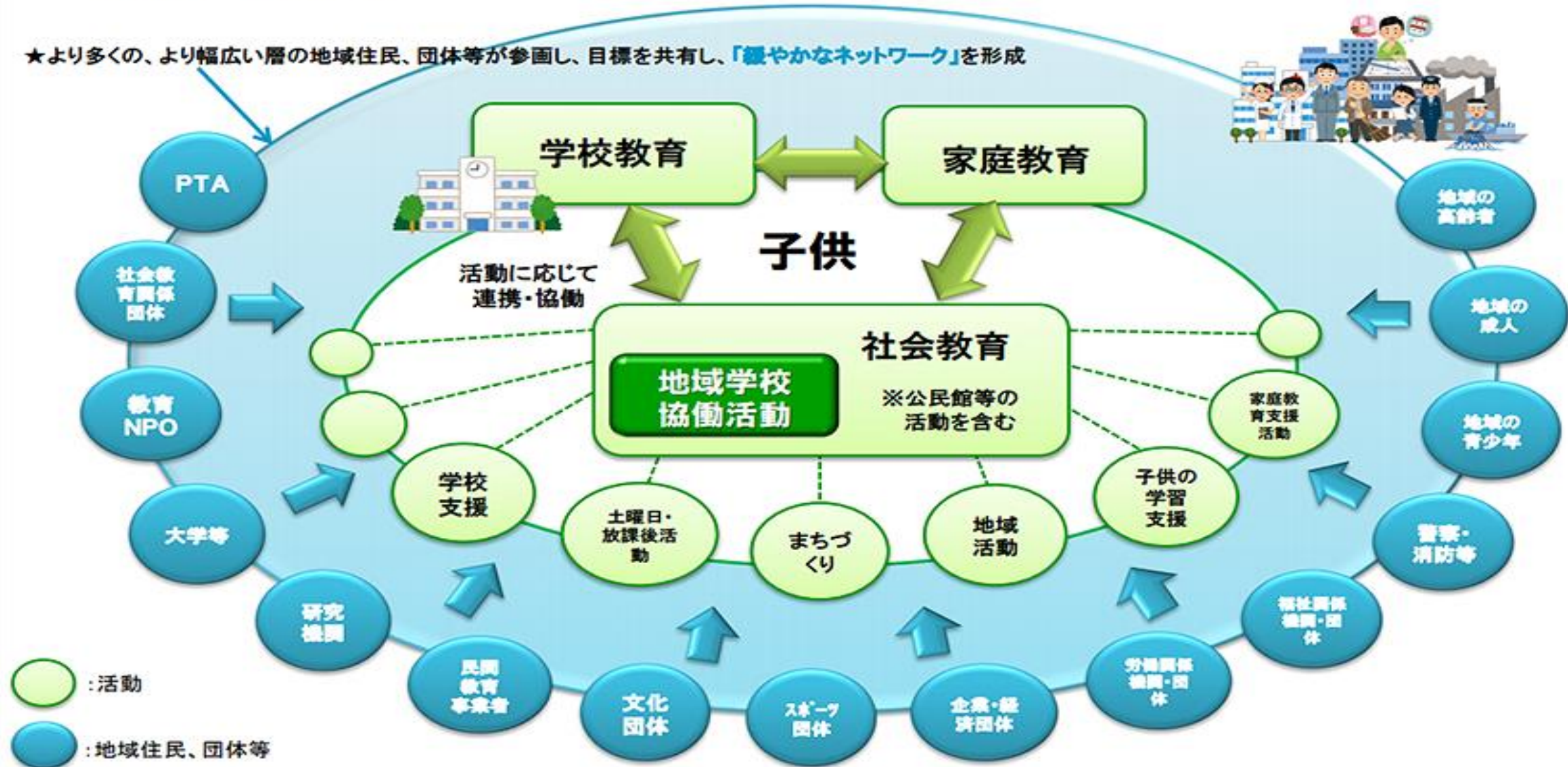
(文部科学省HPより、別資料参照)



# 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



# 地域学校協働活動の事例①

## 地域安全マップ作成

- 写真データは削除しています。
- 写真データは削除しています。





# 地域学校協働活動の事例②

防災の授業・地域の防災訓練：子どもと大人の学び合い

- 写真データは削除しています。
- 写真データは削除しています。



# 3. 子どもの居場所と地域支援

学校外の子どもの支援も重要です。  
子どもがありのままにいられる場所、  
安心できる場所の果たす役割について  
考えてみたいと思います。

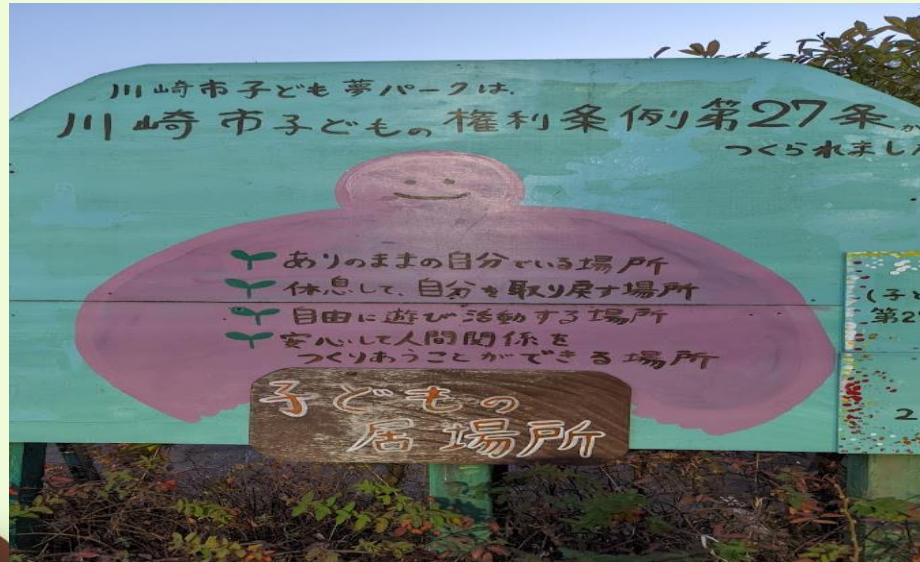


# 地域の居場所

:子どもがありのままにいられる場所、 安心できる場所

川崎市子ども夢パーク

フリースペースえん



# 子どもの居場所: ホットとできる・居心地の良い場所

『令和3年度子ども若者白書』より抜粋 (16年度・19年度比較)

## 自分の部屋



## 家庭

(実家や親族の家を含む)



## 学校

(卒業した学校を含む)



※学校で出会った友人についての質問

## 地域



## 職場



## インターネット空間



## どこにも居場所がない

(上記のいずれも居場所になっていない)



# 相談できる人:何でも相談できる人がいる場所

『令和3年度子ども若者白書』より抜粋（16年度・19年度比較）

	2016年度	2019年度
家庭	59.8%	58.8%
地域	18.2%	18.5%
		(微増)
どこにもいない	23.1%	21.1%



# 子ども若者の自己肯定感

『令和3年度子ども若者白書』より抜粋（16年度・19年度比較）

- **居場所**（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の**多さ**と**自己肯定感の高さ**は、**相関**。
- **相談できる人がいる場**（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の**多さ**と**自己肯定感の高さ**は、**相関**。



# 4. 支援者としての やり甲斐と成長

子どもを支援することとは、  
支援する大人もそこで学び、成長します。



# 「ベテラン支援者」へのインタビュー調査結果の紹介 ～地域支援活動を通じたライフチェンジ～

## 【インタビュー調査の概要】

**対象者**：10年以上の地域支援者としての活動実績を有し、  
後進の地域支援者の育成に携わっている人々（10名）

**調査時期**：2021年5月～8月

参照：柴田彩千子「地域と学校をつなぐ人材育成に関する一考察」『日本生涯教育学会年報 第43号』、2022年発行





	年代	第一子年代	主な地域支援者としての活動機会
A氏	60	30	地域学校協働本部(アドバイザー)、キャリア教育コーディネーター 学校支援NPO(代表)
B氏	50	20	学校支援NPO(代表)、W市統括SC推進委員
C氏	60	20	学運協(会長)、家庭教育支援チーム(顧問)
D氏	50	20	学校支援NPO(代表)、地域子どもクラブ運営担当
E氏	50	20	青少年体験活動コーディネーター、市民大学での講座の企画・運営
F氏	50	20	W市SC推進委員、学校支援NPO理事、中学校区学運協委員
G氏	50	30	小学校CSコーディネーター、町会総務(防災訓練担当)
H氏	50	20	小学校CSコーディネーター、放課後子ども教室コーディネーター
I氏	50	20	教育NPO(代表)、「子どものまち」事業の運営
J氏	50	30	NPOキャリア教育コーディネーター、母親支援サークル(代表)、児童センター 母親クラブ会長

	出身地域	PTA役員 経験	結婚前の 就業状況	第一子の就学前の 状況	現在の 職業	備考
A	外	有	フルタイム	専業主婦	教育NPO代表	起業
B	外	有	フルタイム	専業主婦	教育NPO代表	起業
C	外	有	学生	専業主婦	——	——
D	外	有	フルタイム	専業主婦	教育NPO代表 保育士	起業
E	外	有	フルタイム	専業主婦	市民大学事務局 局主事	専従スタッフ
F	外	有	フルタイム	専業主婦	研究施設事務	——
G	内	有	フルタイム	専業主婦	契約社員	——
H	外	有	フルタイム	専業主婦	パートタイム	——
I	外	有	フルタイム	専業主婦	教育NPO代表	起業
J	外	有	フルタイム	専業主婦	教育NPO 事務局長	専従スタッフ

# 考察：地域支援者としての力量を形成した要因とは？

- ★ 企画調整力や実行力の獲得
- ★ P T A 活動の経験から得られた学習資源
- ★ 地域におけるネットワークの構築
- ★ 個人が形成した力量を発揮することのできる仕組みや制度の整備
- ★ 自らの子育て経験から得られた多様な事象を深く捉え直し、それを地域共通の課題に転換し、地域解決しようとする力量



※ 本研究調査はJSPS科研費JP18K02359の助成を受けて実施したものです。



# ポストコロナ時代の地域支援

- 子どもの居場所と支援者（気軽に相談できるおとな）を増やす
- 地域支援を行うおとなが活動しやすい社会の体制をつくる：ライフチェンジの視点
- 共働き、ひとり親の保護者が地域活動に参加しやすい地域づくり

～子どもとおとなが成長しあえる社会に向かって～

